

大学文書館展示(第三回)

# 「東京外国語大学と 校舎の思い出」

東京外国語大学は、現在の府中キャンパスに至るまで、統廃合・火災・震災や戦災によって度々校舎を失う「キャンパスの受難」の歴史を辿って来ました。今回の展示では、当時作成されたアルバムを中心に、過去の校舎や学生生活の様子を紹介いたします。



○日時:2012年11月20日(火)~2月上旬(予定)

○場所:附属図書館1階ギャラリー

【参考資料】『東京外国語大学史』

《資料御寄贈のお願い》

大学文書館では、東京外国語大学に関わる歴史資料の収集を行っております。在学中の授業ノートや部活・サークル活動・留学の記録などで御寄贈頂けます資料がございましたら、文書館まで御連絡下さい。

【連絡先】大学文書館（東京外国語大学研究講義棟600室）Tel:042-330-5842 e-mail: tufsarchives@tufs.ac.jp

東京外国語学校(旧外語)は、1873年神田一橋通町一番地に建学された。校舎は開成学校(後の東京大学)の跡地を引き継いだもので、全国から集まる学生の為に、寄宿舎も設置された。

旧外語はその後、東京商業学校(現一橋大学)に統廃合され、合併後の校舎は旧外語の跡地が利用された。この措置に対する旧外語関係者の不満は非常に高く、後に校長、長屋順耳は、校舎が継続されたにもかかわらず、廃校にあった旧外語を思い、「庇(ひさし)を貸して主家を取られた…」と当時を振り返っている。(写真①:東京高等商業学校正門(元東京外国語学校正門))

東京外国語学校は、1899年、高等商業学校(東京商業学校が改名)より独立を果たした。独立以前から懸念されていた手狭な校舎の問題に対処すべく、独立の翌年1901年には神田一ツ橋通り(写真②現在の学士会館)に、1903年には神田錦町三丁目十三番地の新校舎に移転した。(写真③)

しかし、1913年2月20日未明、神田三崎町より出火した大火は神田一帯を焼き尽くし(神田大火災)、校舎は全焼してしまう。(写真④大火後の仮舎)

神田大火災から8年後の1921年、麴町区元衛町一番地に新校舎が建設された。(写真④)新校舎建設に8年を要した背景には、外語を東京外国貿易殖民語学校へと改変を目指す政府とそれに反対する外語関係者の交渉、いわゆる「校名存続運動」があった。

しかし、ようやく建設された新校舎(写真⑤)はわずか2年半後の関東大震災により全壊してしまい、外語は再び仮校舎の時代を迎える。

震災から2か月後の11月1日、牛込区市ヶ谷の陸軍士官学校を間借し、授業が再開された。翌年3月には麴町区竹平町一番地(旧文部省跡)に仮校舎が建設された(写真⑥「鶏舎式校舎」と呼ばれた)。当初、仮校舎は震災後の急造バラックで、夏休みまでの五ヶ月間の一時校舎を予定していたが、1933年に滝野川区西ヶ原の元海軍爆薬部の敷地が移転先の選定に難航した為、仮校舎の時代は10余年に及んだ。

西ヶ原に移転先を確保した1933年は、折悪くも大恐慌の真っただ中にあり、建築予算も削減され校舎建設は難航した。着工が開始したのは1940年1月



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

であり、40年夏に第一期分(木造二階建、延383坪)が、42年3月に第二期分(延979坪)が完成した。そして、東京外事専門学校と名称を変更した1944年5月、疎開を兼ねた移転が行われた。

しかし、1945年4月13日の城北大空襲により、西ヶ原校舎は一年を待たず、戦火により焼失した。罹災した校舎に代わり、上野の東京美術学校(現、東京美術大学美術学部)の校舎の一部を間借し、授業が再開された。この上野において外語は終戦を迎えた。

戦後の1946年、板橋区上石神井の智山中学校校舎と元電波兵器技術専修学校の木造校舎を借用することが決まると、6月には移転が実施され、9月には授業が再開された。

資材不足の中、1949年西ヶ原に戦災復興校舎(写真⑦)が建設され、ようやく西ヶ原キャンパスの時代が本格的に始まる。西ヶ原キャンパスは増改築を重ね、1950年代にはそれまでの木造校舎から鉄筋コンクリート造校舎への移行が進んだ。学内では学部の増設、海外事情研究所やアジア・アフリカ言語文化研究所等、研究機関の設置も行われ、大学としての設備の充実化が図られた。

他方、1968年からの学園紛争の際は正門にバリケードが築かれ学内が封鎖されたこともあった。

学部数・学生数が増加してゆく中で、西ヶ原キャンパスの狭隘さが度々問題になった。施設の増設は進んだが、在京の大学の中で、群を抜いて乏しい土地面積は、外大が教育・研究施設として発展してゆく上で、大きな妨げとなった。

折しも1985年9月、教授会において府中地区旧関東村跡地への移転問題が提起された。議論の末、移転希望の方針が決定されたことで、府中への移転交渉が開始された。

この移転計画は、単なるキャンパス移転に留まらず、教育研究面での大学改革と結びつけて推進された。約15年後の2000年8月、現在の府中キャンパスへ移転した。(写真⑨)



⑨

